

幼児の生活習慣の自立能力について

齊 藤 マ サ

Masa. SAITO

ま え が き

乳幼児の生活に適應する能力はその個性、環境、教育等によつて影響されるものである。この問題については鹿大教育学部家政学会誌第3巻に発表したが、今回は学令に達した小児約600名について食事、着衣、睡眠、排泄、衛生等の基本的な生活自立の状態を調査しその主要なものについて発表する。

調 査 方 法

I. 調査対象 昭和30年4月入学の鹿児島市内の小学校の新入児を対象とした。小学校は地域、階層、生活、教育程度等を考慮して伊敷、玉江、西田、山下、名山、鴨池、松原、附属の8校とし1校2学級を選んだ。そのうち家庭からの入学児は男児195、女児167、幼稚園からの入学児は男児101、女児107、保育園からの入学児は男児15、女児28名であつた。

II. 調査方法 対象の学童の調査は昭和30年4年初め担任に依頼してその父兄に質問紙を以て生活実態の記入を求め之を集計した。

成 績

I. 入学児の生活習慣自立の実態

衣、食、住、睡眠、衛生等のうち幼児期における生活の基本と思われる項につき、入学までに習慣づけられた生活自立の状態を、環境別、性別に検討したが、その成績は第1表の通りである。表の1群は家庭から入学した男児、2群は同女児、3群は幼稚園、保育園等の集団生活を経て入学した男児、4群は同女児である。又○印は能力検定の結果最高で×印は最低を示したものである。

1) 着衣可能の能力はいずれの群も90%以上の成績で群間に差はなく、不可能児の平均は6.8%である。2) ボタン掛の可能な能力はいずれの群も90%以上の成績であるがその中でも1群が最高で4群が最低であり、不可能児の平均は5.9%である。3) 紐が1人で結べる能力は4群が最高、3群が最低であり、不可能児の平均は11.0%である。4) 靴が1人ではける能力はいずれも95%以上で群間の差はなく不可能児の平均は1.4%である。5) ハンカチ、ソックス等の洗濯の可能な能力は全般的に低調であるが男児群において著しく、その中では2群が最高、3群が最低である。不可能児の平均は52.2%である。6) 食事が上手にできる能力はいずれも83~90%前後で群間に差はなく不可能児の平均は11.8%である。7) 食事に関する軽い手伝いの能力はいずれも93~97%

第1表 入学児の生活習慣自立の実態

生活習慣能力	グループ								可能 合計 に対する 不可能 率 %	確 率
	1群(家, 男)		2群(家, 女)		3群(集, 男)		4群(集, 女)			
	可能 (人)	不可能 (人)	可能 (人)	不可能 (人)	可能 (人)	不可能 (人)	可能 (人)	不可能 (人)		
1 衣服がきられる	189	6	165	12	109	7	130	5	6.8	$x^2=2.426$ $x_0^2=7.815$
2 ボタンがかけられる	○189	6	151	16	111	5	×127	8	5.9	$x^2=26.19$ $x_0^2=7.815$
3 紐が結べる	169	26	155	12	×94	22	○129	6	11.0	$x^2=15.56$ $x_0^2=7.815$
4 靴がはける	187	8	166	1	116	0	135	1	1.4	
5 ハンカチ, ソックスが洗える	62	133	○120	47	×25	91	89	46	52.2	$x^2=93.31$ $x_0^2=7.815$
6 こぼさないで食事ができる	162	33	146	21	101	15	122	13	11.8	$x^2=4.02$ $x_0^2=7.815$
7 食事に関して軽い手伝ができる	181	14	160	7	112	4	131	4	4.4	$x^2=2.118$ $x_0^2=7.815$
8 食事前後のあいさつができる	×148	47	142	25	101	15	○125	10	14.8	$x^2=24.11$ $x_0^2=7.815$
9 ねるとき, おきたときあいさつができる	×107	88	115	52	○84	32	97	48	34.2	$x^2=12.62$ $x_0^2=7.815$
10 用便後の後始末ができる	190	5	160	7	114	2	134	1	2.3	
11 用便後手を洗う	162	33	151	16	106	10	119	16	11.7	$x^2=6.5$ $x_0^2=7.815$
12 顔や手が洗える	191	4	166	1	115	1	134	1	1.0	
13 入浴ができる	101	94	○113	54	×46	70	77	48	44.8	$x^2=22.81$ $x_0^2=7.815$
14 歯がみがける	×148	47	135	32	72	24	○123	12	18.2	$x^2=18.841$ $x_0^2=7.815$
15 うがいができる	153	42	×124	43	99	17	○118	18	18.8	$x^2=10.66$ $x_0^2=7.815$

で群間に差はない。不可能児の平均は4.4%である。8) 食事前後の挨拶ができる能力は4群が最高, 1群が最低で不可能児の平均は14.8%である。9) 起床就眠時の挨拶ができる能力は3群が最高, 1群が最低であり, 不可能児の平均は34.2%である。10) 用便後の後始末ができる能力はいつでも95%以上で群間に差はなく, 不可能児の平均は2.3%である。11) 用便後の手洗ができる能力はいつでも83%~91%内外であり不可能児の平均は11.7%である。12) 顔や手が洗える能力はいつでも99%内外であり不可能児の平均は1.0%である。13) 入浴ができる能力は全般的に低調であるがその中では2群が最高, 3群は最低であり, 不可能児の平均は44.8%である。14) 歯みがきができる能力は4群が最高, 1群が最低であり不可能児の平均は18.2%である。15) うがいができる能力は4群が最高, 2群が最低であり不可能児の平均は18.8%である。

Ⅱ 幼児の生活習慣自立能力の発現年齢

第1表に示した15項目別に入学までに自立可能となつた対象についてその自立の能力がつき初めた年齢を環境別, 性別に検討すれば次の通りである。(表の年齢は数え年が多く満で記入したのも多少混在している)

(1) 着衣能力の発現年令

着衣自立の能力発現は4才頃から多くなり初めているが最高は男女児共に6才であり、集団生活児群は5~6才で家庭生活児群より1才前後早い。

第2表 着衣能力の発現年令

環 境	年 令		0~2	3	4	5	6	7	8
	性								
家 庭 生 活 児 群	男 児		0	1	12	37	55	48	7
	女 児		0	1	16	35	47	20	4
集 団 生 活 児 群	男 児		0	2	13	37	33	13	2
	女 児		1	0	19	44	45	17	3
計			1	4	60	153	180	98	16

- a 男女の能力 男 児= $x^2=9.488$ $x^2 > x_0^2$ 女 児= $x^2=97.3$ $x_0^2=9.488$
 男女間の能力 $x^2=8.347$ $x_0^2=9.488$
 b 環境と能力 家庭群= $x^2=90.37$ $x_0^2=9.488$ 集団群= $x^2=94.03$ $x_0^2=9.488$
 環境間の能力 $x^2=65.94$ $x_0^2=9.488$

(2) ボタン掛能力の発現年令

ボタン掛自立の能力発現は早くは3才頃から見られるが最高は男児6才、女児5才で全体的には両者に著しい差はなく、家庭群(略)は6才、集団群(略)は5才で後者が1才早い。

第3表 ボタン掛の能力の発現年令

環 境	年 令		0~2	3	4	5	6	7	8
	性								
家 庭 生 活 児 群	男 児		0	1	17	35	56	42	4
	女 児		0	5	11	51	38	21	5
集 団 生 活 児 群	男 児		0	1	22	34	34	11	1
	女 児		0	1	15	46	33	19	3
計			0	8	65	166	161	93	13

- a 男女の能力 男 児= $x^2=82.0$ $x_0^2=9.488$ 女 児= $x^2=163$ $x_0^2=11.07$
 男女間の能力 $x^2=8.282$ $x_0^2=9.488$
 b 環境と能力 家庭群= $x^2=125.57$ $x_0^2=11.07$ 集団群= $x^2=26.65$ $x_0^2=7.815$
 環境間の能力 $x^2=10.439$ $x_0^2=7.837$

(3) 紐むすびの能力の発現年令 (第4表参照)

紐むすびの自立能力の発現は早くは3才頃に見られるが最高は男女共に5~6才であり、家庭群、集団群共に5~6才であるが、全体的には集団群の方が家庭群よりやや早い。

(4) 靴がはける能力の発現年令 (第5表参照)

靴が1人ではける能力発現は早くは2才に見られるが最高は男児4才、女児5才で女児が1才おくれ家庭群、集団群共に5才であるが全体的には集団群が家庭群よりやや早い。

第4表 紐結びの能力の発現年令

環境	年令		0~2	3	4	5	6	7	8
	性								
家庭生活 児群	男児		0	0	7	44	43	39	4
	女児		0	4	10	38	38	28	5
集団生活 児群	男児		1	1	11	31	29	11	1
	女児		0	1	11	38	40	22	3
計			1	6	39	151	150	100	13

a 男女の能力	男児	$x^2=86.638$	$x_0^2=9.488$	女児	$x^2=114.179$	$x_0^2=11.07$
男女間の能力		$x^2=1.376$	$x_0^2=11.07$			
b 環境の能力	家庭群	$x^2=91.854$	$x^2=9.488$	集団群	$x^2=30.32$	$x_0^2=7.815$
環境間の能力		$x^2=7.889$	$x_0^2=7.815$			

第5表 靴がはける能力の発現年令

環境	年令		0~2	3	4	5	6	7	8
	性								
家庭生活 児群	男児		3	10	34	39	42	32	0
	女児		0	11	20	46	35	10	5
集団生活 児群	男児		1	16	37	20	16	6	1
	女児		0	12	35	55	10	8	0
計			4	49	126	160	103	56	6

a 男女の能力	男児	$x^2=21.32$	$x_0^2=9.488$	女児	$x^2=142.94$	$x_0^2=11.07$
男女間の関係		$x^2=19.443$	$x_0^2=9.488$			
b 環境と能力	家庭群	$x^2=98.467$	$x_0^2=11.07$	集団群	$x^2=72.169$	$x_0^2=9.488$
環境間の関係		$x^2=31.97$	$x_0^2=9.488$			

(5) ハンカチ類の洗濯能力の発現年令

ハンカチ・ソックス等の小物の洗濯能力発現は女児は3才から見られるが最高は男児7才、女児6才であるが全体的には両者間に差はなく、家庭群、集団群は共に6才である。

第6表 ハンカチ類の洗濯能力の発現年令

環境	年令		0~2	3	4	5	6	7	8
	性								
家庭生活 児群	男児		0	0	1	10	16	18	7
	女児		0	3	5	15	34	22	9
集団生活 児群	男児		0	0	3	8	6	6	0
	女児		0	0	10	17	31	22	7
計			0	3	19	50	87	68	23

a 男女の能力	男児	$x^2=12.05$	$x_0^2=7.815$	女児	$x^2=47.1$	$x_0^2=9.488$
男女間の関係		$x^2=1.839$	$x_0^2=7.815$			
b 環境と能力	家庭群	$x^2=40.78$	$x_0^2=9.488$	集団群	$x^2=26.18$	$x_0^2=9.488$
環境間の関係		$x^2=4.778$	$x_0^2=9.488$			

(6) こぼさずに食事する能力の発現年齢

こぼさずに食事する能力の発現は早くは2才頃に見られるが最高は男女児共に5才であり家庭群は6才、集団群は5才で前者より1才早い。

第7表 こぼさずに食事ができる能力の発現年齢

環 境	年 令		0~2	3	4	5	6	7	8
	性								
家 庭 生 活 児 群	男 児		1	6	29	40	39	14	11
	女 児		2	5	17	33	36	13	8
集 団 生 活 児 群	男 児		2	11	16	33	18	7	3
	女 児		0	13	27	38	25	7	0
計			5	35	89	144	118	41	22

a 男女の能力	男 児= $x^2=75.3$	$x_0^2=11.07$	女 児= $x^2=87.3$	$x_0^2=11.07$
男女間の関係	$x^2=1.946$	$x_0^2=11.07$		
b 環境と能力	家庭群= $x^2=86.1$	$x_0^2=11.07$	集団群= $x^2=42.6$	$x_0^2=9.488$
環境間の能力	$x^2=10.673$	$x_0^2=9.488$		

(7) 食事に関する手伝能力の発現年齢

食事に関する手伝能力の発現は早くは3才頃見られるが最高は男児5才、女児5~6才であるが全体的には両者間に差はなく、家庭群は6才、集団群は5才で前者より1才早い。

第8表 食事に関する手伝能力の発現年齢

環 境	年 令		0~2	3	4	5	6	7	8
	性								
家 庭 生 活 児 群	男 児		0	3	13	44	43	30	8
	女 児		0	0	9	32	46	20	8
集 団 生 活 児 群	男 児		0	3	16	37	25	8	1
	女 児		0	3	14	46	32	15	1
計			0	9	52	159	146	73	18

a 男女の能力	男 児= $x^2=122$	$x_0^2=11.668$	女 児= $x^2=87$	$x_0^2=9.488$
男女間の関係	$x^2=2.206$	$x_0^2=9.488$		
b 環境と能力	家庭群= $x^2=77.6$	$x_0^2=9.488$	集団群= $x^2=90.4$	$x_0^2=9.488$
環境間の能力	$x^2=21.268$	$x_0^2=7.815$		

(8) 食事前後のあいさつができる能力の発現年齢 (第9表参照)

食事前後のあいさつができるのは2才頃から見られるが最高は男女児共に5才であり家庭群、集団群も共に5才であるが全体的には集団群が家庭群よりやや早い。

(9) 起床、就寝のあいさつができる能力の発現年齢 (第10表参照)

起床、就寝のあいさつができ初めるのは2才頃から見られるが最高は男児5才、女児5~6才で両者間に差はなく、家庭群6才、集団群5才であるが全体的には両者間に差はない。

第9表 食事前後のあいさつができる能力の発現年令

環 境	性	年 令	0~2	3	4	5	6	7	8
家 庭 生 活 児 群	男 児		4	6	22	33	26	16	5
	女 児		4	12	15	32	30	13	6
集 団 生 活 児 群	男 児		2	15	23	27	15	6	2
	女 児		7	17	23	22	22	12	0
計			17	50	83	114	93	47	13

- a 男女の能力 男 児= $x^2=84.81$ $x_0^2=12.592$ 女 児= $x^2=66.26$ $x_0^2=12.592$
 男女間の能力 $x^2=4.712$ $x_0^2=12.592$
 b 環境と能力 家庭群= $x^2=91$ $x_0^2=12.592$ 集団群= $x^2=38.21$ $x_0^2=11.07$
 環境間の能力 $x^2=15.552$ $x_0^2=11.07$

第10表 起床、就寝のあいさつができる能力の発現年令

環 境	性	年 令	0~2	3	4	5	6	7	8
家 庭 生 活 児 群	男 児		0	5	18	22	18	15	6
	女 児		1	7	13	17	29	17	3
集 団 生 活 児 群	男 児		2	7	18	18	15	2	1
	女 児		4	5	9	26	15	16	2
計			7	24	58	83	77	50	12

- a 男女の能力 男 児= $x^2=37.441$ $x_0^2=11.07$ 女 児= $x^2=59.556$ $x_0^2=12.592$
 男女間の能力 $x^2=10.513$ $x_0^2=11.07$
 b 環境と能力 家庭群= $x^2=38.298$ $x_0^2=11.07$ 集団群= $x^2=39.456$ $x_0^2=11.07$
 環境間の能力 $x^2=9.044$ $x_0^2=9.488$

(10) 用便後の後始末能力の発現年令

用便後の後始末ができ初めるのは早くは2才頃から見られるが最高は男児は4~5才、女児は5才であり、全体的には両者間に差はなく、家庭群は5才、集団群は4才で前者より1才早い。

第11表 用便後の後始末の能力の発現年令

環 境	性	年 令	0~2	3	4	5	6	7	8
家 庭 生 活 児 群	男 児		2	6	41	43	42	18	3
	女 児		3	9	29	37	34	11	5
集 団 生 活 児 群	男 児		1	8	37	33	12	5	1
	女 児		2	13	34	34	14	5	0
計			8	36	141	147	102	39	9

- a 男女の能力 男 児= $x^2=61.37$ $x_0^2=9.488$ 女 児= $x^2=138.39$ $x_0^2=12.59$
 男女間の能力 $x^2=4.134$ $x_0^2=9.488$
 b 環境と能力 家庭群= $x^2=143.204$ $x_0^2=12.590$ 集団群= $x^2=74.945$ $x_0^2=9.488$
 環境間の能力 $x^2=26.659$ $x_0^2=9.488$

(11) 用便後の手洗能力の発現年令

用便後の手洗が1人ででき初めるのは早くは2才頃から見られるが最高は男女児共に5才であり、家庭群、集団群共に5才であるが、全体的には集団群が家庭群よりもやや早い。

第12表 用便後の手洗の能力の発現年令

環 境	年 令		0~2	3	4	5	6	7	8
	性								
家 庭 生 活 児 群	男 児		1	12	23	38	24	21	5
	女 児		2	13	18	28	31	14	7
集 団 生 活 児 群	男 児		4	15	27	23	15	2	1
	女 児		2	10	23	31	17	9	1
計			9	50	91	120	87	46	14

a 男女の能力 男 児= $x^2=90.98$ $x_0^2=12.592$ 女 児= $x^2=50.63$ $x_0^2=11.07$
 男女間の能力 $x^2=2.41$ $x_0^2=11.07$
 b 環境と能力 家庭群= $x^2=47.74$ $x_0^2=11.07$ 集団群= $x^2=62.32$ $x_0^2=11.07$
 環境間の能力 $x^2=21.18$ $x_0^2=9.488$

(12) 洗顔(手)の能力の発現年令

願や手が1人で洗い初めたのは3才頃から多くなりかけているが最高は男女児共に5才であり、家庭群、集団群共に5才であるが全体的には集団群が家庭群よりもやや早い。

第13表 洗顔(手)の能力の発現年令

環 境	年 令		0~2	3	4	5	6	7	8
	性								
家 庭 生 活 児 群	男 児		0	3	29	51	35	32	1
	女 児		3	7	20	38	39	16	5
集 団 生 活 児 群	男 児		0	11	28	35	12	5	2
	女 児		1	10	30	39	21	8	0
計			4	31	107	163	107	61	8

a 男女の能力 男 児= $x^2=55.9$ $x_0^2=9.488$ 女 児= $x^2=44.5$ $x_0^2=9.488$
 男女間の能力 $x^2=4.929$ $x_0^2=9.488$
 b 環境と能力 家庭群= $x^2=58.734$ $x_0^2=9.488$ 集団群= $x^2=63.6$ $x_0^2=9.488$
 環境間の能力 $x^2=31.333$ $x_0^2=9.488$

(13) 入浴の能力の発現年令 (第14表参照)

入浴が1人で出来初めるのは4才頃に多くなりかけているが最高は男女共に6才であり、家庭群、集団群も共に6才であるが全体的には集団群が家庭群よりもやや早い。

(14) 歯みがきの能力の発現年令 (第15表参照)

歯みがきの能力の発現は早くは3才頃に見られるが最高は男女児共に6才であり、家庭群は6才、集団群は5才で前者より1才早い。

第14表 入浴の能力の発現年令

環境	性	年令	0~2	3	4	5	6	7	8
家庭生活 児群	男児		0	0	2	13	29	26	6
	女児		0	0	10	14	28	25	11
集団生活 児群	男児		0	1	3	13	18	6	0
	女児		0	0	5	21	27	13	0
計			0	1	20	61	102	70	17

- a 男女の能力 男児= $x^2=54$ $x_0^2=9.488$ 女児= $x^2=41.1$ $x_0^2=9.488$
 男女間の能力 $x^2=3.286$ $x_0^2=9.488$
 b 環境と能力 家庭群= $x^2=48.5$ $x_0^2=9.488$ 集団群= $x^2=27$ $x_0^2=7.815$
 環境間の能力 $x^2=20.334$ $x_0^2=7.815$

第15表 歯みがきの能力の発現年令

環境	性	年令	0~2	3	4	5	6	7	8
家庭生活 児群	男児		0	4	5	20	43	35	7
	女児		1	5	7	20	40	22	10
集団生活 児群	男児		0	4	24	25	21	10	1
	女児		1	6	18	33	29	14	1
計			2	19	54	98	133	81	19

- a 男女の能力 男児= $x^2=75.74$ $x_0^2=11.07$ 女児= $x^2=76.22$ $x_0^2=11.07$
 男女間の能力 $x^2=2.867$ $x_0^2=11.07$
 b 環境と能力 家庭群= $x^2=117.19$ $x_0^2=11.07$ 集団群= $x^2=80.02$ $x_0^2=11.07$
 環境間の能力 $x^2=50.93$ $x_0^2=11.07$

(15) うがいの能力の発現年令

うがいの能力の発現は早くは3才頃に見られるが最高は男女児共に6才であり、家庭群は6才、集団群は5才で前者より1才早い。

第16表 うがいの能力の発現年令

環境	性	年令	0~2	3	4	5	6	7	8
家庭生活 児群	男児		0	4	16	21	42	28	8
	女児		1	5	7	18	38	21	7
集団生活 児群	男児		0	4	20	32	16	8	0
	女児		1	3	12	42	25	17	0
計			2	16	55	113	121	74	15

- a 男女の能力 男児= $x^2=69.27$ $x_0^2=11.07$ 女児= $x^2=73.8$ $x_0^2=11.07$
 男女間の能力 $x^2=5.594$ $x_0^2=11.07$
 b 環境と能力 家庭群= $x^2=40.6$ $x_0^2=11.07$ 集団群= $x^2=66.3$ $x_0^2=9.488$
 環境間の能力 $x^2=42.74$ $x_0^2=9.488$

以上各項に述べた成績を1覧表にすれば17表の通りである。

第17表 幼児の生活習慣自立の発現年令(最も多く現われる年令)

	生 活 習 慣	性 別			環 境 別		
		男 児	女 児	男 女 差	家庭群	集団群	家・集・差
1	衣 服 が き ら れ る	オ 6	オ 6	な し	オ 6	○5~6	あ り
2	ボ タ ン が か け ら れ る	6	5	〃	6	○ 5	〃
3	紐 が 結 べ る	5~6	5~6	〃	5~6	○5~6	〃
4	靴 が は け る	○4	5	あ り	5	○ 5	〃
5	ハンカチソックスが洗える	7	6	な し	6	6	な し
6	こぼさずに食事ができる	5	5	〃	6	○ 5	あ り
7	食事に関する軽い手伝ができる	5	5~6	〃	6	○ 5	〃
8	食事前後のあいさつができる	5	5	〃	5	○ 5	〃
9	ねるとき、おきたときあいさつができる	5	5~6	〃	6	5	な し
10	用便後のあとしまつができる	4~5	5	〃	5	○ 4	あ り
11	用 便 後 手 を 洗 う	5	5	〃	5	○ 5	〃
12	顔 や 手 が 洗 え る	5	5	〃	5	○ 5	〃
13	入 浴 が で き る	6	6	〃	6	○ 6	〃
14	歯 が み が け る	6	6	〃	6	○ 5	〃
15	う が い が で き る	6	6	〃	6	○ 5	〃

○印は群間の優位を示す

考 按

入学児の生活習慣の自立の実態は完成に近いと思われるものは靴がはける、洗顔(手)ができる、用便後の後しまつができる等の能力であり、次が着衣、ボタン掛、軽い手伝等で紐結び、食事、用便後の手洗は不可能児が11%内外あり、歯みがき、うがいの不可能児は18%~19%である。更に成績が振わないのは起床、就眠時のあいさつ不可能児34.2%、入浴不可能児44.8%であり最も悪いのはハンカチ・ソックス等の洗濯の不可能児52.2%を示したことであった。特に此の項は男女差が著しく男児では70%を占めていた。グループ別に見れば集団生活女児群が最も成績がよく、次は家庭生活女児群、集団生活男児群、家庭生活男児群の順となつた。

幼児の生活習慣の自立は17表に示したように少数ではあるが3才頃からつき初めているが、靴ばき能力4才、洗濯能力7才、用便後の後しまつ4才を除けば他は殆ど5~6才の間に完成が最も多かつた。男女差は見るべきものはなかつたが、幼稚園、保育園等の集団生活児群は家庭生活児群よりも2例を除けば他は殆ど1年前後優先していた。

結 び

幼児の基本的生活習慣の自立はおそくとも満5才迄に完成させねばならぬと言われているが、本調査に1、2の難問はあつたにしても一般におくれていると思われた。第1表のように小学校入学に到つてもいまだ完成されないのは遺憾に思われた。第2表以下の男女差は前回(昭和28年)に比べると減少しているが第1表においては男児の能力は女児に劣っている。この事実は調査紙に書

かれた指導者（母）の声として男女の差をつけて躰をしたものが30%を占めていた事に通ずるのではなかろうか。本調査の成績は幼児本来の能力のみではなく之に指導者（母）の力が加わっていることを思わねばならない。研究を通じて現在鹿児島市内の家庭の持つ教育感の一端をのぞき得た様な気がした。

研究に対する資料御提供の学校並に集計に御援助を頂いた木下先生に厚く感謝いたします。

参 考 文 献

- 平井信義外 幼児保育の知識 51～57
高橋さやか 保育とその実際 70～97
青木誠四郎 児童心理学 133, 378～386
アーノルドゲゼル 乳幼児の心理学 447～501
山下俊郎 訳
-